

市内スーパー24店舗

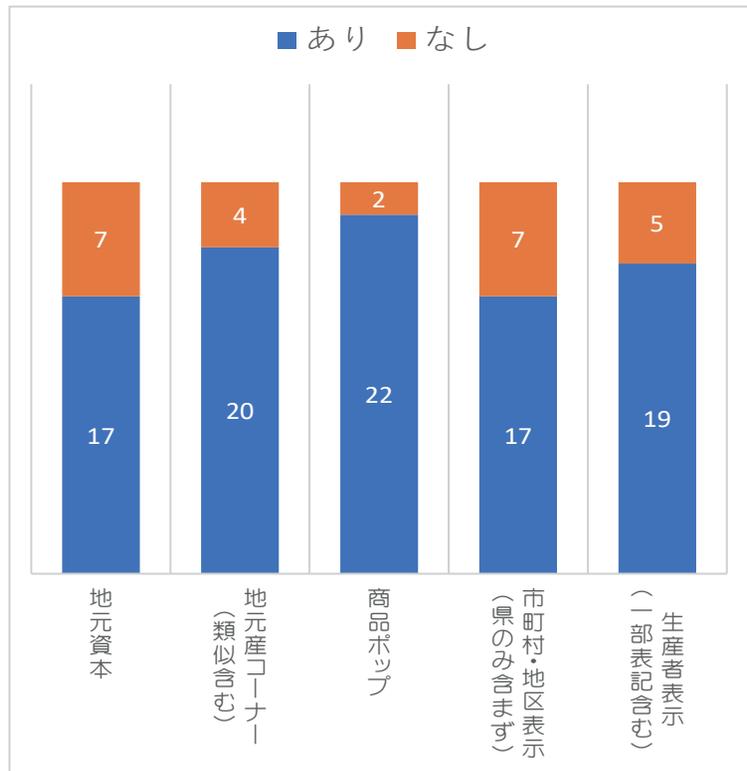
～ 産業建設委員会 踏査結果 ～

産業建設委員会では、地域内経済の循環をテーマとし、昨年度は、地域の皆さんの身近な普段の買い物の状況について意見交換をさせていただきました。

その集計結果から、①食料品は地元資本の店を利用されている方が多い、②買い物時に地元農産物を意識していない方が約 1/3 を占めている、③今後地元農産物を意識した買い物をしたいと回答した方が 8 割を超えている結果となりました。

産業建設委員会では、まずは、地元の農畜産物が現状どのように販売されているか把握するため、9/19 に市内スーパー 24 店舗の踏査を行いました。

※共通事項の踏査結果は右図。



▼ 地元資本

- 今回の踏査は、食料品を扱っている地元資本の 17 店舗（地元のチェーン店や農産物直売所、個人商店など）と、地元資本でない全国チェーン店 7 店舗、全体で 24 店舗の踏査調査を行いました。

▼ 地元産コーナー

- 24 店舗中、20 店舗が「地元産コーナー」（農産物直売所は店自体をコーナーとした）を設置していました。
- 全国チェーン店 7 店舗は、全ての店舗にコーナーが設置されていました。
- 大型看板や登り旗がありコーナーが売り場の中心になっている店舗、逆にコーナーはあるがあまり目立っていない店舗など、各店舗により状況に違いがありました。

▼ 商品ポップ

- 24 店舗中、22 店舗が商品のポップを行っていました。大きさや書かれている内容など、各店舗により状況に違いがありました。

▼ 市町村・地区表示

- 24 店舗中、17 店舗が産地表示を市町村・地区表示としていました。一方で全国チェーン店は「長野県産」と表示している店舗の方が、割合が高い結果となりました。

▼ 生産者表示

- 24 店舗中、19 店舗で生産者の表示がされていました。地元資本の比較的小さな店舗では、生産者表示がされていない状況でした。